

第 37 回多摩シンポジウム

趣旨説明

「スマートシティを創る！—地域と大学の持続可能な連携をめざして—」

多摩地域は今、人口減少にともなう空き家や空き地の増加にどう対処するか、ますます激甚化する気象災害や想定される大震災にどう備えるか、高齢者の交通弱者化や買い物難民化をどのようにくい止めるか、といったさまざまな地域課題の解決をせまられています。その鍵を握るコンセプトとして近年注目されているのが「スマートシティ」です。

今回の多摩シンポジウムでは、八王子市めじろ台地区で進められているスマートシティへの取り組みをひとつの手がかりに、これからの多摩地域における地域課題の解決の方向性を語り合う機会にしたいと思います。

めじろ台地区では、スマート・モビリティの実証実験と空き地を活用したソーラーシェアリングの設置を同時に進め、低速電動自動車による誰でも安心して利用できるグリーン・スロー・モビリティを空き地の太陽光パネルから充電して走らせるシステムを創り出そうとしています。地域の中に発電設備ができれば、災害時に停電が起こった場合にも一時的に電力を自給できるという意味で、防災対策も視野に入れているのです。

今回のシンポジウムでは、まず午前の中で、法政大学からめじろ台地区の間で低速電動バスの先行事例である桐生市の MAYU 号の試乗会を兼ねたデモンストレーションおよび、めじろ台地区内の空き地に設置されたソーラーシェアリングの現場を登壇者で視察します。さらに、MAYU 号の試乗体験会を行い、めじろ台地区でどのようなまちづくりが行われようとしているかを参加者の皆さんにも体験的に共有していただこうと考えています。

午後の部では、それを踏まえて、スマートシティ、グリーン・スロー・モビリティ、地域自給型再生可能エネルギーのそれぞれの関係者・専門家と討論を深め、めじろ台地区から多摩地域のスマートシティの可能性を展望したいと思います。

池田寛二
法政大学多摩地域交流センター長